

大空と希望

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会
広報誌【大空と希望】2024年3月発行
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2・7 4階
TEL: 011-208-3320 / FAX: 011-204-7312
URL: https://h-gh.net

ブロック再編について、これまでの経緯と今後についてご報告いたします。

【経緯】
令和元年10月の理事会で、後志ブロック理事より「次年度の理事選出が困難な状況にある」との報告がありました。後日、板谷副会長（当時）と加藤総務委員長（当時）が小樽市で開催された役員会議に参加し、今後について協議しています。その後、後志ブロックより「今後についてグループホーム協会に一任する」との報告があり、総務委員会で協議の結果「令和2年度より後志ブロックの活動は休止とし、後志ブロックの活動は札幌ブロックで行う」とし、理事会に報告しています。

理事より「今後、理事・事務局の選出は困難な状況にある」と報告があり、この理事会で協議のうえ、「後は道央ブロックの活動は休止とし、ブロックの活動は札幌・日胆ブロックで行う」としました。以上のことを踏まえて、ブロック再編に至っています。

ブロック再編については、総務委員会で再編案の作成が難しく、理事各位に地域性等を考慮して意見を頂き、再編案を作成し理事会で承認されています。

【再編】
令和6年度（4月1日～）より、8ブロック体制（道東・道南・道北・日胆・札幌・十勝・空知・オホーツク）でブロック活動を行います。後志・道央ブロックは道南・日胆・札幌ブロックに編入されます。

【今後について】

各ブロック共に、理事・事務局・役員等の選出がなかなか難しい状況となっています。

その原因として、会員数の減少や人手不足による業務の多忙等が考えられます。会員数の減少に関して、退会の理由に「業績の都合、会費の捻出が出来ない・協会は何もしてくれない」等があげられています。当協会の特徴として、執行側からの提供だけでなく会員が意見し協力してブロック独自の事業が出来ます。

この困難な状況の時こそ、今まで以上に各会員の協力でブロック活動を行うことが必要なことを理解して頂き、活動して行くことで得るものが多くあると考えます。

現ブロック	市町村	新ブロック
道央	江別市、北広島市	札幌
	恵庭市、千歳市	日胆
後志	小樽市、京極町、倶知安町、共和町、岩内町、泊村、神恵内村、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村	札幌
	二セコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町	日胆
	島牧村、寿都町、黒松内町、蘭越町	道南

編集後記

新年早々の能登半島地震で亡くなられた方、被災された皆様、心からお悔やみ、お見舞い申し上げます。1日も早い復興を願っております。

以前から今の岸田内閣の行き当たりばったり政策に信頼も期待も無いところですが、この地震の対応に関しても、自助、共助だけで公助は何もなく被災者と民間事業者で何とかしてくれ、省庁お墨付きのBCP（事業継続計画）は機能しない事を裏書きしたようなものです。結局自分の命は自分で守れよ、ですが日本人の助け合いの心は、派閥、裏金、キックバックとやっている政治家よりずっと人として崇高であり格の違いが表れていると思う今日この

頃です。

さて、先日の新聞によると新認知症治療薬「レカネマブ」販売開始とありました。厚生労働省の諮問機関、中央社会保険医療協議会は、認知症のアルツハイマー病新薬「レカネマブ」の公定価格（薬価）を、患者一人（体重50kgの場合）当たりの治療で年約298万円とすることを了承した。公的医療保険の適用対象となり効果に期待する人が多い一方、医療保険財政を圧迫すると懸念もある。対象は軽度認知症患者と、その前段階である軽度認知障害の人。患者には体重1kgにつき10mgを2週間に1回、点滴して投与するものです。投与期間は原則1年半まで、

薬価は一瓶（500mg）11万4443円で患者の自己負担は薬価の1割～3割で医療費が高額となった場合は「高額療養費制度」対象となり、70歳以上の一般所得層（年収約156万～約370万）では自己負担額が年間14万4000円となる見通しである。

私たちの判断は如何に？
あなたは使いますか？



事業委員会 担当 副会長 平山 洋一

インタグラムのリール動画のお話をご紹介します。

アメリカで交通事故に遭った方がいらっしゃる。男性の方。運転をしていて、一瞬の不注意から、他の車にぶつかり、病院に担ぎ込まれる。意識不明の重体から目を覚ますと、左足切断。一瞬の不注意で、人生を棒に振ってしまったと思ひ、悲嘆のどん底にいた。その病院に日本から駆けつけてきた奥さん。病室に入るなり、なんとおっしゃったか。旦那さんを泣きながら抱き抱えて、なんとおっしゃったか。「あなた、良かったわね。命は助かった。右足は残ったじゃない。」この奥さん、見事だと私は思う。人生の解釈力。このギリギリの場面で、なんと解釈するのか。「あの不注意で左足を失って、人生を棒に振ってしまった」と思うのか、「ああ、命が残って有難い、右足が残った、有難い」と思うのか。この解釈力の差。人間の強さとは一体何か？私は

この解釈力だと思う。

私の昨年的一年間は、そんなどん底を経験した日々でした。でも、いつも私の傍にいて、信じ、励まし、力になって、助けてくれた家族、職員、仲間の方々がいらっしゃいました。ホームを運営していると、色んな課題が起きてきます。そのネガティブな出来事に、何度も、何度も挫けそうになり、もうダメかと思いましたが、その度に、彼らは「大丈夫です！なんとかなります！なんとかします！大丈夫です！」「今がどん底だとしたら、あとは良くなるだけですから大丈夫ですよ！」と、ポジティブに励まし、心の支えになってくれました。今思うと、彼らこそが豊富な解釈力の持ち主で、その解釈は、人生のどん底と思っていた不幸な出来事でも、ホームがより良くなるための出来事、若しくは、円満なホームの運営、継続、継承のための出来事だと教えてもらえました。この彼らの解釈力こそが、

その時の私を救い、今のホームの存続に繋がっています。本当に感謝の気持ちでいっぱいになります。

この度、会長に再び立候補し、会長候補者として当選させていただきました。私が会長に立候補しようと思わせてくれたのも、この解釈力のお陰だと思っています。私の役目は会員の皆さまのホームで暮らす方々の幸せ（豊かな暮らしづくり）の実現に、協会として何が出来るかだと考えています。このことが、この国の豊かさに繋がってゆくものと信じております。これからも多くの課題が山積していますが、お互いに解釈力を豊かに持ち、より良い協会運営を心がけていければ幸いです。

今後とも、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

感謝

職員不足と物価高の中での取り組みについて

空知ブロック 加藤 圭太郎

職員不足と物価高の中で、私たちの施設は様々な課題に直面しています。国際的な背景を持つ職員が在籍しており、ベトナム人1名、ミャンマー人6名、ネパール人1名という多様性は、私たちのチームの強みの一つです。この多国籍なチームを活かしつつ、現在の困難に対処するための具体的な取り組みを以下に示します。

① 人材確保と育成
多国籍職員の活用：言語や文化の多様性を理解し、相互の学びを深める研修を定期的に実施しています。これにより、職員間のコミュニケーションの向上とチームワークの促進を図ります。
キャリアパスの提供：職員が長期的に働きたいようになるようなキャリアパスを明確にし、専門技術や言語能力の向上を支援し

ています。これにより、職員の定着率を高め、職員不足を緩和します。

② 物価高への対応
経費削減の工夫：物価高に伴い、経費削減が必要となりますので、買い物等もスーパーへ直接足を運び調達したり、除雪を業者にたのまず自分たちで行ったりしています。

③ 職員の福利厚生とモチベーション向上
福利厚生の充実：職員が安心して働けるよう、福利厚生の充実をはかるために、退職金共済等加入（常勤、非常勤問わず）等を行っております。
報酬体系の見直し：物価高による生活コストの上昇を考慮し、公正かつ競争力のある報酬体系を考えています。（年功序列ではなく能力重視）これにより、職員の

モチベーション維持と定着を図ります。

④ コミュニティとの連携
地域コミュニティとの協力：地域の資源を活用し、地域コミュニティ（地域包括や社会福祉協議会・町内会）との連携を深めることで、サービスの質を高め、コストを抑えます。

これらの取り組みは、職員不足と物価高の双方に対応するために必要不可欠です。多国籍なチームの力を最大限に引き出し、全員が協力してこれらの課題に立ち向かっています。私たちの目標は、質の高いケアを提供し続けることと、職員が働きがいを感じ、長く続けられる職場環境を作ることです。



介護人材確保に向けた安平町の取り組み

日胆ブロック 中田 良彦

安平町は千歳市と苫小牧市に隣接した人口7330人（令和5年11月末現在）、高齢化率36.6%（令和2年3月末時点）となっており、そんな安平町には現在、グループホーム3事業所（5ユニット）、特別養護老人ホーム2か所（30人定員と地域密着型20人定員）、ケアハウス1か所（特定施設入居者介護付30人定員）、デイサービス3か所（うち1か所は認知症対応型）、訪問介護（1事業所）、小規模多機能（1事業所）、居宅介護支援事業所（2事業所）がありますが、ここ数年の間に事業の譲渡（グループホーム）や閉鎖（デイサービス1か所、デイケア1か所、居宅介護事業所2か所、訪問介護1か所）されました。その理由は様々でしょうが、人材不足が大きな要因の一つであることは間違いありませんでした。そこで危機感を感じた安平町は、町の施策として様々な人材確保の取り組みが成されていますので、それらをご紹介します。

①安平町介護人材バンク（令和4年1月1日～）
介護の仕事に興味のある町民が、町に申込み登録（登録時にあびらポイント100ポイント付与）し、事業所は、資格や就業条件などがマッチしたら町に申請し連絡先を教えてください。

②安平町外国人介護職員人材確保補助事業（令和5年4月1日～）
事業所が外国人労働者を半年以上雇用した場合、1事業所につき1年に1回、人材紹介手数料・及び支援委託費などの補助対象経費の1/2（120万を上限）として補助する。

③地域おこし協力隊（令和5年6月1日～）
地域おこし協力隊（介護ささえ隊）として募集し、3年間は協力隊員の身分で、介護事業所で就労。3年間の間に事業所は資格取得のための支援を行い、3年後に事業所の職員として就労することを目指す。



④その他
令和6年度より、町が人材派遣会社と契約し、3か月間の人件費を負担して各事業所に派遣。3か月終了後にその個人と事業所が就労契約を結ぶことができるという取り組みを実施する予定。
また、人材確保には直結しない事業ではあるが、安平町独自の取り組みとして「安平町指定地域密着型介護事業所の入院給付費助成」（令和4年4月1日～）があり、入院した入居者が事業所に戻ってくることを条件に90日間（介護保険での入院時費用期間を除く）入院時費用（1日246単位）と同額が助成される。
以上、安平町における人材確保に関する取り組みを紹介しましたが、それでもそもそも介護を希望する人材が少ないことも確かで、人材確保に苦慮している現実がありますが、今後も安平町とも連携しながら、事業継続と質の良い介護目指し、人材の確保と育成に努めていきたいと考えています。

人材不足に伴う人材育成と物価高騰について

道南ブロック 村田 葉子

今現在、人材不足や物価高騰で多くの福祉施設が頭を抱えている事と
思います。人材不足については、介護の知識を身に付けたい、認知症の学びをしたいという方がこの数年で大きく減少しました。その背景には様々な理由がありますが、グループホームという少人数制の職員で業務を行って行く身にとっては本当に大きなダメージを伴います。そんな中でも入居者様の為に、時間外労働や休日出勤をしてまでも一生懸命にお勤めされている職員の皆様達を見ると、頭が下がる思いになります。私は現在認知症コーディネーターとして、数ヶ所グループホームへアドバイザーとして入らせていただいておりますが、そこで感じた事は新しい職員が入って来ても継続しないというホーム側の悩みが多い様です。職員の皆様と関わっておりますと、お勤めした理由は様々ではありますが、心の余裕が持てない・認知症に

ついての学びの時間がない・そこから自分のしている事が正しいのか そうでないのかがわからない・業務に追われ、入居者様とゆっくり関わる時間が持てない 等の声を聞く事が出来ました。その様な意見を聞き、そんな中に新しく希望を持って入ってくれた職員の方の教育は出来ないと感じております。ホーム長や管理者の方だけが新しい人材を教育するものではありません。ホームに関わる全ての職員の皆様で貴重な人材を育てて、守って、長くお勤めして下さる努力をしていかなければならないと思っております。それは働きやすい環境作り。人間関係、上下関係、コミュニケーション等小さな事からですが、人の言葉、表情、態度からしか伝わらない物がそこにはあります。時間がないから、人が居ないからとそこをやらないのではなく、定期的にその為だけの時間を作れば良い事。退職して行く職員の方は色々な理由で退職を申し出てこられますが、本当の理由を聞きますと人間関係が理由で退職され

る方が多いのですから、小さな事ではございますが、そこがとても重要と考えます。人は誰かに背中を押してもらったり、認めてもらいたい生きものです。方法は様々あると思いますが、職員の皆様全員がまずは自分自身の気持ちを満たし、そこから溢れたもので気持ち良く新しく入る職員を迎える準備が出来ている事がとても大切なのではないでしょうか。実際現場に入ると余裕がないという現実もよく理解出来ます。しかし、今現在一生懸命お勤めして下さる職員の皆様方でお互い心を満たす時間を作る事が、今後の人材不足の問題を改善して行く為の方法としての一つになるかもしれません。物価高騰に関しては稼働率を上げる事、維持する事を目標に、待機者の方々へのご連絡で現在の状況を常に把握して、効率良く入居・退去をスムーズにしておく事が大切だと感じております。



2024年度（令和6年度）研修日程 及び 開催地域 ※予定

認知症介護実践研修（実践者研修）

- 第1回【旭川】 2024年 5月9日～7月9日
- 第2回【札幌】 2024年 6月20日～8月20日
- 第3回【苫小牧】 2024年 7月23日～9月12日

認知症介護実践研修（実践リーダー研修）

- 第1回【旭川】 2024年 8月6日～10月4日
- 第2回【札幌】 2024年 10月21日～12月3日

認知症対応型サービス事業管理者研修

- 第1回【旭川】 2024年 7月9日～7月10日
- 第2回【札幌】 2024年 8月20日～8月21日
- 第3回【苫小牧】 2024年 9月12日～9月13日

当会主催 - 企画研修 -

- 第1回 自主研修【札幌】
「ブラッシュアップ研修」 講師：宮崎 直人氏
2024年 9月26日
- 第2回 自主研修【札幌】
「認知症の医学的基礎知識研修」 講師：松本 一生氏
2024年 11月12日

※日程等変更になる場合がございます。詳しくはホームページ等をご覧ください。

URL <https://h-gh.net>

2024年度 助成事業

- 事業委員会担当 -

ブロック	時期	開催地	事業名	講師等 (敬称略)
札幌	2024年 8月 1日	札幌市	『オレンジランプ』 上映	-
道南	2024年 12月 6日	函館市	身体拘束適正化・高齢者虐待防止研修会	加藤 和也
日胆	2024年 9月 18日	室蘭市	日胆ブロック研修（室蘭）	宮崎 直人
	2024年 10月 16日	苫小牧市	日胆ブロック研修（苫小牧）	
	2024年 11月 13日	新ひだか町	日胆ブロック研修（新ひだか）	
道東	2024年 7月 下旬	釧路市	認知症ケア研修	未定
オホーツク	2024年度	未定	スキルアップ研修	未定
	2024年度	未定	高齢者の虐待防止	未定